

株式会社新生銀行 第9期株主総会質疑応答概要

■ 質疑概要

- (質問者 1) ①ストックオプションは今後も行なわれるのか
②役員で持株が無いのはどういうことか
③利益回復の時期と目標水準について
- (回答) 今期はストックオプションは付与しないこととした。執行役の多くは公開買付時に投資を行っている。かつてのように金融機関の利益が大幅に伸びるようなことは期待できず、安定的かつ継続的な利益の計上が評価されての株価上昇を目標としている。具体的な利益・株価の回復時期などは申し上げられない。
- (質問者 2) ①投信等の個人向け商品の窓口販売停止など取扱の変更は、どのような方針で行なわれているのか
- (回答) ニーズの低下した商品の整理、新しい商品の提供など、お客様の望んでいる、かつふさわしい商品を提供することが重要と考えている。
- (質問者 3) ①銀行はもっと安定的な経営をすべきではないか
②業績不振にかかわらず高額報酬を支払うのは不当ではないか
③社長による持株の形態について
- (回答) 昨年度までリスク管理の点で問題があり、経営陣の交代も含めて対応、業績回復のために努力している。経営健全化計画の未達成は大いに反省。役員報酬は昨年度比大幅減で責任を取らせ、さらに不振部門の整理によって報酬全体を削減している。持株方式は、招集通知 54 ページに記載のとおり。
- (質問者 4) ①今期 100 億円の利益を計上したら配当を行なう旨コミットせよ
②事業戦略として国内回帰だけで正しいか、他行との戦略的経営統合の見込み、人材育成状況など銀行の将来の見通しはどうか
- (回答) 人材は長期的な内部育成が一番大事と考えており、人材開発委員会の再発足もその趣旨。リスクの把握・管理なしに海外で投資を進めたことが問題であり、今後は市場に知悉しリスクを把握できなければ行なわない。統合等に関しては決まっていないので答えられることはないが、様々な選択肢を検討中。配当は、様々な観点から検討を行い決定すべきであり、確約はできないが、株式会社として利益を計上し配当を行なうというのは基本であり、利益回復と復配を経営陣の責任と考える。

- (質問者 5) ①取締役について、出席率が低い、兼職が多すぎる、等について
②取締役が高齢すぎるのではないか
- (回答) 本日欠席の3名の取締役からは再任辞退の申し出があり、出席率の低さもあり退任を受け入れた。兼職については同一企業グループ内の兼職であり実質は一つというケースもあるため、必ずしも多くはないと思う。その他の取締役は社外取締役として水準以上の時間を割かれ、十分に責任を果たしている。年齢の件はご意見を承った。
- (質問者 6) ①報酬によって業務をする人より、熱意有る人を役員にすべきでは
- (回答) 現在の執行役は経験・能力からいっても十分その責任にたえられる人材であり、処遇についても大幅に抑えられている一方、非常に努力してもらっている。
- (質問者 7) ①榎原取締役に、当社の問題点についての見方を問う
②招集通知 25 ページに記載の、取締役報酬決定要素である「グローバルスタンダードに基づき」とは何か
- (回答) (議長) これまでの「グローバルスタンダード」自体ゆらいでいる。報酬の体系については、考え直しつつある。
(榎原取締役) 当行の現状の業績不振は、リスク管理体制が遅れをとったことに大きく起因。国内回帰という方針も、リスク管理を十分に行いつつ当行の特徴を活かして推進することが課題と認識。
- (質問者 8) ①八城社長の経営理念と今後の経済への見方について
②理想とする人材像について
- (回答) 銀行にとって最も大事なのがお客様、次に株主と従業員。やはり人材を大事にし育成することが、お客様・株主に報いることになる。尊敬すべき人は、あえてあげるとすれば、自分でビジネスをつくっていった松下幸之助さんか。

以 上